

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／有本ヒデア

悩める者こそ来たれ。 禅の心を通じて、 自分を磨いてほしい

欧

米をはじめ世界中の多くの人々は、日本に対して禅のイメージを有しています。事実、茶道、華道、書道、剣道などあらゆる日本文化の根底や、日常生活の中にも禅の心は息づいています。そうしたことを深く理解し、外国語で世界に発信できる人材は欠かせません。

来年度、同一学校法人の花園中学・高校に「スーパーグローバルZENコース」を設置する予定なのもそのためです。禅の心を基本に、英語力、討論力などを養います。

臨済宗妙心寺派の大本山妙心寺を母体とする花園大学においても、そうした教育を積極的に進めたいと考えています。禅の心を基本に、教職員

と共に心を磨く。そういう学校であってほしいのです。これからのグローバルな社会で残っていく大学とは、ほかにはない特色のある大学です。200人が一堂に集える大坐禅堂をもち、本場の臨済禅を学べる大学は世界中を探してもありません。

長い歴史の中で変遷してきたとはいえ、今ある2学部8学科はすべて仏教精神を基盤に派生してきました。例えば、私は本学の社会福祉学科の2期生ですが、福祉の根本精神は仏教であり禅の教えです。

個人的な構想として、発達障がいのある学生を対象とした支援の充実と体系化および入試選抜方法を検討しているのも、そうした考え方の延長線上

にあります。単に受け入れるだけでなく、他学科の授業も選択できるなどの柔軟なカリキュラムを通じて学生の成長を促し、出口もしっかり保障していきたいと考えています。実現に向けて課題はありますが、取り組む意義はあると感じています。

物から心への時代といわれて久しいですが、心について深く学べる大学はそう多くはありません。悩んでいる人、苦しんでいる人こそ来てほしいし、禅を通じて、己の心を見つめてほしいと思います。

学生時代は、いつけん無駄だと思えることでも吸収しておくことが大切です。そうしたことが気づかぬうちに自分の中身を作り、人生を良からしめることにつながります。もちろん、現実的な幸せの具現化のために必要な準備はするとして、より大切なのは、これからの人生を、どういう心持ちで生きるか、どうすれば幸せにつながるかを考えることです。

昔と比べ、学生数が増えたとはいえ、総合大学と比べれば小規模な大学です。一人ひとりの顔が見え、一人ひとりのもって生まれた良さを発見し、大切に育てる寺子屋のような学校であり続けたいと思います。



学校法人花園学園(花園大学)
学園長
松井宗益

【学園長プロフィール】まつい・そうえき●1947年生まれ。花園大学文学部卒業。臨済宗妙心寺派宗議会議員、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺総務部長、同代表役員宗務総長、学校法人花園学園理事長などを経て、2014年9月より現職。

【大学法人プロフィール】1872年妙心寺山内に創建された般若林を始まりとして1949年に設置。文学部(仏教学科、日本史学科、文化遺産学科、日本文学科、創造表現学科)、社会福祉学部(社会福祉学科、臨床心理学科、児童福祉学科)の2学部8学科。